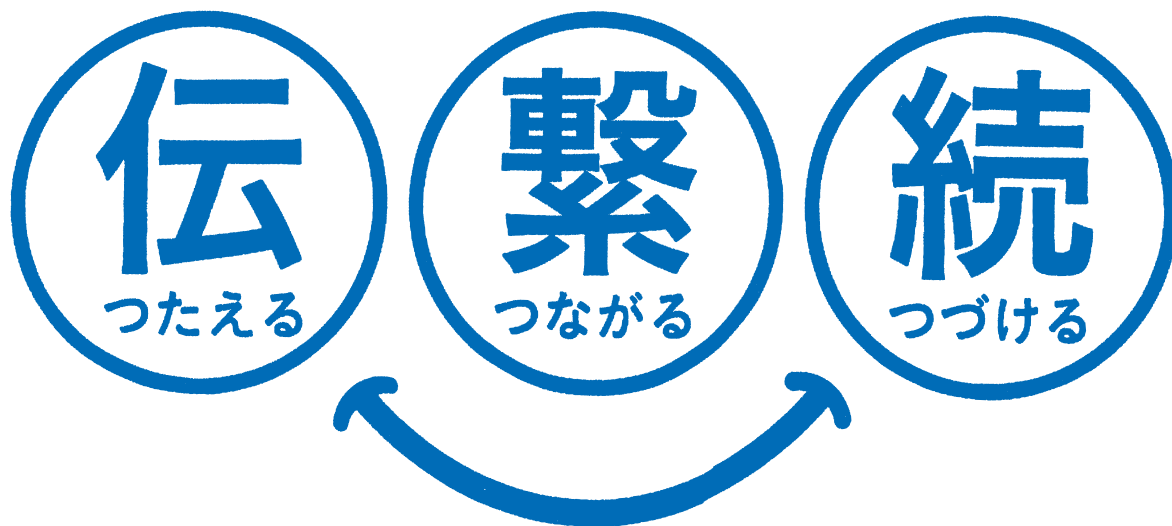


MIYAGI×NAGANO×HYOGO×OKAYAMA×KUMAMOTO

2021



2021年度

学生災害ボランティア・ネットワーク事業
報告書

VOLUNTEER

REPORT 2021 JUL. ▶ 2022 MAR.

神戸市社会福祉協議会・日本財団ボランティアセンター
大学コンソーシアムひょうご神戸

2021年度
学生災害ボランティア・ネットワーク事業

神戸市社会福祉協議会・日本財団ボランティアセンター
大学コンソーシアムひょうご神戸

3つの“つ”

つた
伝える

— 災害の経験と教訓を、現地の現状を —

つな
繋がる

— 現地の住民、学生と —

つづ
続ける

— 現地での活動をこれからも —

私たちのボランティア活動は、今年で11年目となりました。

活動当初から掲げてきた活動のコンセプトが、「つたえる・つながる・つづける」の「3つの“つ”」です。

尚絅学院大学の学生ボランティアとの活動を通じて受け継がれてきました。

コロナ禍であっても、自分達ができることを考え、活動後もこの活動に参加した学生たちによって受け継がれていきます。



VOLUNTEER REPORT 2021 2022 JUL. MAR.

MIYAGI×NAGANO×HYOGO×OKAYAMA×KUMAMOTO



CONTENTS

	(ページ)
ごあいさつ	02
活動の概要 & 活動プログラム	04
宮城県名取市関上・兵庫県三木市での活動	08
長野県長野市長沼・豊野地区 兵庫県神戸市長田地区での活動	09
岡山県小田郡矢掛町・倉敷市真備町での活動	10
熊本県人吉市での活動	11
アンケート結果からみた学生の成長	12
参加した学生の声	13
お世話になった現地の方のコメント	16
スタッフのコメント	18

ごあいさつ

大学コンソーシアムひょうご神戸
学生交流委員会 委員長代理
神戸親和女子大学
教授

大島 剛



1995年の阪神・淡路大震災から27年が経ちました。居ても立ってもいられず2011年の夏に宮城県名取市に学生ボランティアバスを出しました。あの時経験した兵庫の思いが16年後の東日本大震災に繋がるとは予想だにしていませんでした。当時はまだ阪神・淡路大震災で被災した記憶がある学生も交じり、そうでない学生も何とかしなくてはならないという強い思いに駆られて、被災地の実情に生で接し、興奮冷めやらずこちらに戻ってきたと思います。

それから11年、宮城県名取市には毎年の夏休みに行かせていただき、現地のパートナーの尚絅学院大学とも親交を深めてきました。そして2016年熊本地震が起きて、熊本県益城町にもバスをしつらえて行くことになりました。2018年の西日本豪雨災害によって翌年岡山県真備町にもボランティアバスを出しました。最後に4か所目の被災地として豪雨災害のあった長野県長野市を加えて現地活動をしたところで、日本を席卷する新型コロナ感染症という5番目の災害にみまわれてしまいました。

元々は大学生の若者が被災地の仮設住宅を訪れて、行事ごとをしたり、住民の方とお話をしたり、掃除などのお手伝いをしたりという、非日常の客人としての来訪が主でした。しかし、11年の時を経て復興の名のもとに大きく変化した名取市閉上、地震と新たに水害が重なった熊本県、少しずつ復興してきた真備町、長野市と、それぞれに適するボランティア支援の内容が異なり、何をすべきか何ができるかに学生ともども考えなくてはならなかった矢先に、2020年わが国にもコロナ禍が起こって、現地に行くことも難しい状況となり、活動内容の大きな変更が余儀なくされました。

そこで昨年度から、リモートを駆使した現地の方々との交流という手法で、現地入りのできない現状での活動の模索を続けることになりました。昨年の学びと反省を踏まえて、新たなボランティアのあり方として、リモートでの現地の方々との交流、子どもたちや高校生との協働など今まで思いもよらなかったものが登場して来て、バージョンアップしています。正に今年はコロナ禍までも克服するようなニューノーマルの時代にふさわしい成果をあげることができたと思います。この経験が今後来るであろう災害への備えになるだけでなく、平時の積極的な社会活動の学生の自信につながっていくことを期待します。

本活動に大変な中ご協力いただいた現地の被災されたの方々、そしてそれを支える関係者の方々にお礼を申し上げます。また、今年度の事業に携わった学生、神戸市社会福祉協議会、日本財団ボランティアセンター、大学コンソーシアムひょうご神戸各加盟大学のスタッフの方々にもねぎらいの言葉をかけさせていただきまます。お疲れ様でした。

神戸市社会福祉協議会
地域支援部長

禰宜田 竜樹



「2021年度 学生災害ボランティア・ネットワーク事業」に参加されたみなさん、約8か月に及ぶ活動期間大変お疲れさまでした。

昨年度に引き続いて新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた一年でしたが、みなさんはこの事業に参加して、どんな気づきや学びがあったのでしょうか。コロナ禍がなければ現地に赴いて、直接対話することやいろんな取り組みもできたはずですが、感染拡大防止の制約の中で、計画が変更や中止になったりいろいろと困難なことがあったのではないかと思います。

毎年みなさんをお願いすることですが、“現地に行くことだけが被災地支援ではない”、“遠く離れた場所からも被災地支援はできる”ということをみなさんに知っていただきたいと思います。コロナ禍は人と人とのつながりを奪いましたが、一方で新しいカタチでつながれることを発見する機会でもありました。従来のやり方にとらわれず、何が必要か、何が求められているのか自由な発想で、ぜひこれからも被災地支援に限らず様々な活動に取り組んでいただきたいと思います。

みなさんの身近な地域で起きている様々な課題に目を向け、みなさんが関わりやすいスタイルで、“我が事”として取り組んでいただけることを期待しています。

最後に、大学コンソーシアムひょうご神戸をはじめとする共催団体ならびに本事業にご協力いただいた被災地・関係団体のみなさんにあらためて感謝申し上げますとともに、被災地の着実な復興をお祈り申し上げます。

日本財団ボランティアセンター
常務理事

澤渡 一登



本事業に参画された学生ボランティアの皆様、ご尽力いただいた共催各社をはじめ関係者の皆様、活動を受け入れてくださった皆様に心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

本年度の事業参加学生の4割が1、2年生でしたが、コロナ禍のなかで学生生活を過ごすこととなり、オンライン授業や課外活動の制限、その影響による人間関係の構築の難しさなど、期待していたことができていないという方も多いことでしょう。また、チームごとで現地へ足を運ぶことができたかどうかは異なりますが、地域の方々とのコミュニケーションを期待して参加した方の満足度には、グラデーションのあることと思います。

活動において、自分たちのしたことに意味があったのだろうか、と考えてしまうかもしれません。確信を持ってお伝えしたいことは、ボランティアでしかできないこと、生み出せない価値は必ずあったということです。地域の方々にとっては、共有できた時間は支えの一つとなります。

学生の皆様にとっても、違う大学、会う事の無かった仲間たちと、このままでは知らずに過ごしていたかもしれない地域の方々と触れ合ったことが、何がしかの糧になっています。これから折に触れて、あんなことがあったと思いたすことがあるかも知れません。そして他の様々な学びを続けるうちに、本年度の経験を違った角度から考えることができ、社会課題に関心をもち、解決に向けて踏み出す一歩となることを祈っております。

学生スタッフ代表
頌栄短期大学
専攻科1回生

森本 彩乃



今年度は宮城県と長野県で活動させていただきました。2つのチームを担当することは初めてで、どのような立場で活動に参加すれば良いのかわかりませんでした。「メンバーと近くでいたい」「一緒に活動をしていきたい」という気持ちが強く、前に出過ぎた部分もありますが、どちらのチームメンバーも暖かく受け入れてくれたと感じます。現地の方々とも遠隔や対面で関わることができ、とても嬉しかったです。

各現地にてご協力いただきました皆様、大学コンソーシアムひょうご神戸のスタッフをはじめ、協力団体の皆様のおかげで今年度も充実した活動を行うことができました。ありがとうございました。

学生スタッフ代表
神戸女子大学
文学部 3回生

茶谷 まりん



今年度は岡山県と熊本県で活動させていただきました。私がこのボランティアに参加するのは3年目ですが、先輩方がつないできた活動をコロナ禍ではありましたが今年も続けることができました。

上手くいかないことや厳しいことなどたくさんありましたが、学生共々現地の方々には何かしたいという気持ちや想いはいっぱい、ただひたすらに走り続けた1年間だったと思います。岡山県熊本県のみなさんからは、たくさんの学びと温かさをいただきました。これらの経験や思い出を忘れず胸に、私自身これから生活を送ります。

この活動に関わって支えてくださった多くの方々、充実した活動をさせてくださってありがとうございました。

活動の概要

2021年度 活動趣旨

『コロナ禍の中での災害ボランティアを考える』

阪神・淡路大震災を経験した兵庫県の学生として、日常的な地域福祉や社会支援と災害時およびその後の災害支援とが連続性を持っていることを学び、このコロナ禍におけるボランティア活動について、近年の被災地域（宮城県、長野県、岡山県、熊本県）の現地関係者と考え、実践します。兵庫県の学生が中心となり、被災地をはじめとする各地とのネットワークづくりを目指すこの活動を通して、「自発性を持ち、社会的ニーズに対して活動する」というボランティアの原点に立ち、自ら課題を見つけ、協働的に活動していくことを学びます。また、被災各地での協働活動の取り組みから、復興支援の実情および今後の災害に備える力を養います。

共催

神戸市社会福祉協議会
日本財団ボランティアセンター
大学コンソーシアムひょうご神戸

実施日

2021年7月～2022年3月

現地活動日程

宮城県

10月9日	名取復興文化祭
11月30日・12月14日	茶話会★
12月28日	三木の小学生と絵灯籠作成
1月25日	絵灯籠制作★

長野県

12月9日	防災学習会
12月20日・12月27日	まちの縁側ぬくぬく亭との交流会★
1月6日・7日	現地活動
1月14日・15日・21日	まちの縁側ぬくぬく亭との交流会★
1月15日	消防団の防災・減災講演会

岡山県

12月26日	現地活動
1月22日	真備災害すごろく大会★

熊本県

11月15日・12月20日	つながるカフェ★
11月28日・1月9日・10日	熊本学園大学学生と交流
2月11日・2月12日	現地活動

★はオンライン

参加学生

学生26名 学生スタッフ2名 計28名

活動プログラム

オリエンテーション・第1回研修会

日時：2021年7月4日（日）13：30～17：00
場所：兵庫国際交流会館 3階 多目的ホール
研修テーマ：『教えて先輩！私×ボランティア×防災』 どうやって自分の思いを実現？

ねらい：自身のボランティアに対するおもいを実現する方法を知り、活動後にありたい自分の姿を考える。自分にとって今回のボランティア活動に参加する意味を考える。

研修：

- オリエンテーションとスタッフ紹介
 - 主催者挨拶
大学コンソーシアムひょうご神戸 学生交流委員会 委員長代理 神戸親和女子大学 地域連携センター長 大島 剛
 - スタッフ紹介・参加者自己紹介
2021年度学生スタッフ 茶谷 まりん・森本 彩乃
 - 学生災害ボランティア・ネットワーク事業について
大学コンソーシアムひょうご神戸 学生交流委員会 ボランティア事業事務局 甲南大学 地域連携センター事務局 課長 松下 賢一
- 第1回研修会
 - 「アーティストとしてできること～防災をカルチャーに～」
講師：神戸発・防災ユニット「Bloom Works」(Kazz・石田裕之)
 - 今後の活動に向けて
大学コンソーシアムひょうご神戸 学生交流委員会 神戸親和女子大学 教授 大島 剛
神戸女子大学 教授 大西 雅裕

この研修で、学生は何を学び、何を感じたか？

参加学生コメント

神戸発・防災ユニットとして活動されている Bloom Works の石田さんが石巻市で被災された方と一緒にコンサートをした話を聞いて、ボランティアは被災された方が元気になるだけでなく、ボランティアをした人々も元気になるのと知り、互いに良い時間を共有できるボランティアを素敵だなと感じた。そして、Bloom Works の防災を伝えていく活動にも感銘を受けた。お二人は自ら防災について興味を持つことが一番防災をすることに効果的だと話された。今後防災を人に伝えるとき、伝える相手自身から防災に取り組むようにサポートできるようになりたい。被災地のために何をすることができるのかを考えると、何より一番にすべきことは被災者の思いをしっかり受け止めることからだと思った。こちらが一方的に活動するよりも相手の思いがわかって活動するほうが良い環境を作ることができる。そうすることでよりニーズに沿った活動ができるだろう。



第2回研修会

日時：2021年7月11日（日）13：00～17：00
場所：兵庫国際交流会館 3階 多目的ホール
テーマ：お互いを知り、活動現場を知る。
ねらい：お互いの人となりや考えを知り、チームづくりのきっかけとする。現地活動のイメージを持つ。

内容：

- 講師：日本財団ボランティアセンター 宮腰 義仁
- チェックイン グループワークのち全体ワーク
 - 第一回研修会の振り返り
 - 災害ボランティアについて（緊急・復旧・復興）
 - これからのスケジュールの確認
 - 自分のこれまでとこれからを語る、仲間のこれまでとこれからを聴く
 - グループでのコミュニケーションツールの紹介
 - チェックアウト グループワークのち全体ワーク

この研修で、学生は何を学び、何を感じたか？

参加学生コメント①

皆さんのボランティアに対する考えを知ることができ、自分のボランティアに対する考えが深まりました。また、メンバーの将来のビジョンとそれに付随したボランティアの取り組みについて意見交換をしたので、みんなの目標とするボランティアを実現したいなと思いました。改めて今回自分のボランティア活動に参加した理由を考えると、周りの方に比べてふわっとしたものだと感じました。ボランティアの意思に劣る劣らないをつけるのは違うかもしれませんが、少なくとも周りの皆さんに置いて行かれないように、また活動していく中で、私自身のボランティアに対する考えをより深いものにしていきたいと思いました。

参加学生コメント②

緊急期、復旧期はイメージがありましたが、復興期については新しい学びでした。自分自身、災害が起きてニュースで放送されている期間は見っていますが、10年経った東日本大震災は記憶から薄れているなど感じていました。被災地の方からすれば5年、10年は短いものではなく、継続的に関わっていくことが大事だなと感じました。



第3回研修会

日時：2021年8月8日（日）13：00～17：00
場所：こうべ市民福祉交流センター
テーマ：ボランティアってなんだろう？& “思い出を守る”被災地支援活動を体験しよう！

ねらい：ボランティアとしての心構えや視点に関する学びを通じて、参加する学生たちが本事業における自らのスタンスを認識し、今後の活動でそれらを意識しながら取り組んでいけるよう後押しする。写真洗浄の体験を通じて、遠隔地でも取り組める災害地支援活動の実例を知る。また、参加者たちと年代の近いおたがいさまプロジェクトメンバーとの話を通して、被災者に寄り添うことの大切さや活動に込める思いに触れることで、ボランティアとしての自らのありようを考える機会とする。

内容：

- 西日本豪雨の災害時のお話し（井上 望さん）
- ボランティアについて考える
講師：神戸市社会福祉協議会 広報交流担当課長 藤崎 圭多朗
- 写真洗浄活動の紹介と体験（おたがいさまプロジェクト）
- 先輩ボランティアを交えてグループワーク
- 講評
講師：神戸親和女子大学 教授 大島 剛

この研修で、学生は何を学び、何を感じたか？

参加学生コメント①

井上さんのリアルな体験談を伺い、災害の恐ろしさや被災地の方のつらい経験を身近に感じられた。被災してから立ち直ることの難しさが印象強く残った。藤崎さんのお話では、被災地の方の声を傾聴することの大切さ、心に寄り添うことの大切さを学ぶことができた。写真洗浄は初めての体験だった。泥だらけになった写真を見て被災を実感し、写真に写る人たちの気持ちを考えることやボランティアの大切さを考える貴重な経験となった。今回の研修会を通して、ボランティアの役割を具体的に理解することができ、被災地の方に私たちが出来る事はなにかを考える機会となった。

参加学生コメント②

私も同世代の被災者の話を聞いて少しショックだった。私とその被災者だったらと考えたら怖くなった。特

に「私だけ私服で学校に行った。みんなの何気ない一言に傷つくこともあった」という話を聞いて被災者にかかる一言や行動が知らぬ間に傷つけていることもあるから気を付けなければいけないと思った。しかし、気を使いすぎるとそれぞれで傷つけてしまうから気を付けなければいけないと思った。写真洗浄も初めてした。写真洗浄をされている方の「思い出を大切にする」という想いがとても伝わってきた。写真洗浄を体験してみたら『余計なもの、思い出まで洗浄してしまわないだろうか』と怖かった。それぞれの写真にはそれぞれのたくさんの想いがある。本当に大切なボランティアだと痛感した。



第4回研修会

日時：2021年8月15日(日) 14:00～17:00
場所：ZOOMによるオンライン

テーマ：(学び) 阪神・淡路大震災を学ぶ
(実践) マイ・タイムラインをつかって、実際の災害時の想定した活動を行う
(問い) 今日の学びと実践から、自身の「ボランティア活動」に対する問いを探す

ねらい：現地活動を行う際の立ち位置のベースとなる、「阪神淡路大震災があった神戸の学生」という意識を持つ。「ひょうご災害・防災リーダー」になるという自覚をもつ。

実際の災害時の活動シミュレーションを経て、これから行うボランティア活動について深く考えることで、自分の中に「ボランティア、防災」を落とし込む。

内容：

1. 阪神・淡路大震災から学ぶ
講師：人と防災未来センター 主任研究員 高原 耕平
2. 自分ごと防災ファーストステップ ～マイ・タイムラインを使った防災活動～
講師：ふたば学舎 震災学習ラボ 室長 山住 勝利
3. 「被災した方への寄り添いとは…」
講師：神戸親和女子大学 教授 大島 剛
4. チームミーティング

この研修で、学生は何を学び、何を感じたか？

参加学生コメント

講師の大島先生から寄り添うことについて様々なことを学びましたが、私が印象に残ったのは被災して出会う

ものと回復に必要なものです。被災して出会うものは恐怖や不自由なものだけではなくありません。私が活動している宮城での災害のことを想像すると、みなさん自分が大切にしていたものも、住んでいた家も、ふるさとも全て海に流されてしまいました。自分を削り上げてくれた大切なものたちの大部分を流されてしまったと想像すると私は本当に辛く感じます。そして、回復に必要なものの中のひとつが信頼できる人間関係です。「わがまを言える環境」「安心して病気になる環境」が大切だと聞いてハッとさせられました。避難所ではみんな不安でピリピリしていて子どもまで空気を読んで泣くことも出来ません。子どもらしいわがまも言えません。病気になるさらさらに周りに迷惑を掛けると自分のしんどさを訴えることもできません。それらを言えるような安心した環境になれば人は前に進めることを学びました。それらを踏まえて私たちにできることをもう一度考え、学びました。私も被災地についてじっくりと学び、傾聴し、被災地の方々の良き支援者となろうと決めました。

第5回研修会



日時：2021年9月5日(日) 14:00～17:00
場所：ZOOMによるオンライン

テーマ：私たちが大切にしたいこと
ねらい：後半のチーム活動をより良いものとするため、これまでの研修を振り返り、これからの活動の目的を考える。

内容：

1. これまでの研修会の振り返り
2. ボランティア活動の心構え
講師：神戸常盤大学 ボランティアセンター
コーディネーター 戸谷 富江
2021年度学生スタッフ 茶谷 まりん・森本 彩乃
3. チームミーティング

この研修で、学生は何を学び、何を感じたか？

参加学生コメント

今まで全ての研修会を振り返ることができたので初めに帰ることができたと思う。私たちがそれぞれ強みと持っていることを存分に発揮しながらこれからの活動に取り組んでいきたいと思った。「今はコロナ禍で中々現地にも行けない」、「対面で会議もすることができなくて

思ったように活動できない」という悪い点も多いけれど、だからこそできたことやメリットもある。それを忘れずに、ポジティブに活動していこうと思った。



第6回研修会

日時：2021年9月12日(日) 14:00～17:00
場所：ZOOMによるオンライン

研修内容：

1. 活動計画についてのプレゼンテーション
2. 今後の現地活動に向けての心構え
講師：神戸女子大学 教授 大西 雅裕
3. チームミーティング

この研修で、学生は何を学び、何を感じたか？

参加学生コメント①

他のグループの発表を見て改めて他の地域の災害のことを学んだ。それぞれのグループも「班員の個性を活かそうと頑張るグループ」だったり「ヒアリングを徹底的に行うグループ」だったり色々個性があって、これからの活動に参考になりそうなことも沢山あった。それぞれ今後の課題を確認し、これからの活動をより良いものにしていきたい。

参加学生コメント②

私が一番印象的だったのは私たちの暮らしの原点の「生活すること」まで戻って講義をしていただいたことである。私は「なぜそこまで戻って講義するのだろうか？」と疑問に思った。しかし、私たちの生活は環境と人間の相互作用で成り立っている。私たちが何かを変えようと行動することで少しずつではあるが、環境が変わるかもしれない。だから、「生活すること」まで戻って講義されたのだと思った。私たちは生活とは何か？それを踏まえたうえでボランティアの基本生活と必要な力について学んだ。私はその話を聞いて共感する力、聴く力、観る力を特に大切にしながら頑張っていこうと思った。

振り返りの会

日時：2022年1月23日(日) 14:00～17:00
場所：ZOOMによるオンライン

研修内容：

1. 各チームによる現地活動報告のプレゼンテーション
2. 「NHK神戸放送局 地域に根差した防災・減災の取り組み」
講師：NHK神戸放送局 阪神営業センター
副部長 矢作 公雄
デスク 森山 哲明
3. 活動の振り返り
4. 今後の意気込みを語ろう
5. 修了証書、リーダー認定書授与
6. まとめ
講師：神戸女子大学 教授 大西 雅裕
7. 閉会の挨拶
講師：神戸親和女子大学 教授 大島 剛

この研修で、学生は何を学び、何を感じたか？

参加学生コメント

各チームによるプレゼンテーションで、このボランティア活動を通して多くの参加学生が「学生である自分達には今、何が出来るのか？」を真剣に考え、現地の人々に寄り添いながら活動してきたんだな、と非常に感じた。また、今後の意気込みを語る時には仲間や現地の方々に対する感謝を述べ、これからはボランティア活動を続けたい、と話している学生が私以外にも沢山いて本当にこの活動に参加して良かったと思った。



宮城県名取市閉上 兵庫県三木市での活動

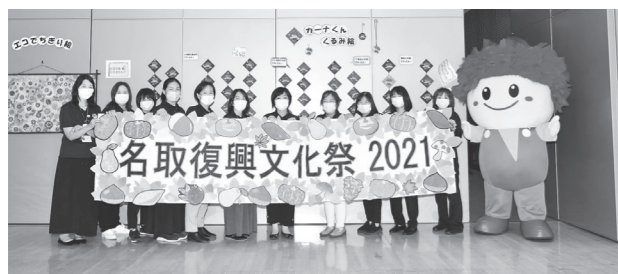
●名取復興文化祭

日時：10月9日

場所：名取市文化会館

趣旨：名取と神戸の11年間の交流の歴史とこれからのポスターで表現し、「これまでも、これからも」つながっていくことを名取市の方に伝える

内容：10月9日に行われた名取復興文化祭にポスター掲示という形で参加。私たちのこれまでの活動とこれからの活動内容、私たちの想いなどを紹介しました。名取市閉上の方に私たちについて知ってもらおうきっかけづくりになりました。



●Zoomで旅行気分を!! バーチャルトラベル@お茶会

日時：11月30日、12月14日 10:00~11:30

場所：zoom(閉上中央町内会集会所)

参加者：閉上地区の住民の方15名、尚綱学院大学TASKIの学生5名、神戸学生3名

趣旨：現地の方々と尚綱学院大学ボランティアチームTASKIの方々との交流を深める。

コロナ禍で中々旅行に行けない中、現地の方に少しでも旅行気分を味わっていただき、楽しみや話題を提供する。

内容：「コロナ禍で旅行に行けない、ずっと交流している神戸や尚綱学院大学のことを知りたい」という現地の方々の声を受け、兵庫や大阪、尚綱学院大学のオススメスポットや魅力紹介動画を作成。どっと.なとり主催の閉上地区の茶話会で上映し、現地の方と交流しました。尚綱学院大学のボランティアチームTASKIのメンバーにも協力していただき、閉上の方々に私たちの地元のお菓子を配ってもらったり、動画やお菓子をきっかけにお互いの地元の話が広がり、気分が上がる良い交流の場となりました。



●絵灯籠の絵作成

日時：12月28日 13:00~15:00

場所：兵庫県三木市緑が丘アフタースクール

参加者：緑が丘アフタースクールに通う小学3年生~6年生の児童15名、閉上中央町内会会長の長沼俊幸さん、神戸学生7名

趣旨：被災地の一番の想いである「震災のことを忘れないでほしい・伝えていってほしい」という想いを受け継ぐ、子どもたちに絵灯籠を通して震災の事を伝えていく

内容：閉上中央町内会会長の長沼さんから、緑が丘アフタースクールの小学校3年生~6年生の児童に震災のお話しをしていただいた後、児童と一緒に絵灯籠で使用する絵を描きました。長沼さんから「宮城と言ったら何を思い浮かぶ?」と聞かれ、子どもたちは照れながらも「気仙沼?」「津波?」「ずんだ餅?」などと答え、クイズなども交えて、楽しい交流会となりました。その後、子どもたちに感じたことを絵灯籠の絵で表現してもらいました。子どもたちは「どんな絵にしよう?」と悩みながらもそれぞれの想いのこもった絵を描いていました。

●絵灯籠組み立て

日時：1月25日 10:00~11:30

場所：zoom(閉上中央町内会集会所)

参加者：閉上地区の住民の方15名、神戸学生3名

趣旨：絵灯籠の組み立てを協同することで、現地の方々との交流・被災地の想いを感じる

内容：三木市の子どもたちと私たちが描いた絵を閉上に送り、オンラインでつないで一緒に絵灯籠の組み立てを行いました。また、神戸にも閉上から絵灯籠の骨組みを送ってもらい、一緒に作成しました。絵灯籠の話だけでなく、前回のバーチャルトリップの話など、笑いの絶えない暖かい交流の場になりました。3月にはTASKIの皆さんの絵も加わり、今回の交流会にかかわったみなさんの想いが詰まった絵灯籠が3.11の追悼式で灯されます。どうかみんなの想いが被災された方々に届き、復興の輪が永久に続きますように…



●学生の声

神戸学院大学 2回生 延原 克駿

ここまで自分たちが主体となって活動するボランティアは初めてでどうしたらいいのかわからないことだらけでしたが、みんなと助け合いながら無事に終わられました。ありがとうございました。また、活動にあたってどっと.なとり菊地さんや長沼さんにも大変お世話になりました。ありがとうございました。

長野県長野市長沼・豊野地区 兵庫県神戸市長田地区での活動

●防災学習会

日時：12月9日 16:00~17:00

場所：神戸常盤大学子育て総合支援施設内学習支援センター「てらこや」

参加者：長田地区の小学生15名(小学1年生~6年生)、神戸学生4名

趣旨：長野県の災害の経験を防災に活かすために、神戸の子どもたちに災害・防災学習を行う

内容：

- (1)災害のピクトグラムを使ったクイズ。
- (2)長野県の災害や、マイタイムラインの大切さをパワーポイントで伝える。
- (3)避難時に持っていくものを個人・グループで考えてみようというゲーム。

長野県社会福祉協議会の山崎博之(ひろゆき)さん、NGO結の中路(なかじ)花子さんのご協力によって、その当時長野市消防団長沼分団分団長であった飯島基弘さんからお話を聞く機会を設けていただき、当時の状況を聞かせてもらいました。その内容をもとに、神戸に住む子どもたちに向けて、長野県であった台風被害の実情と、災害に対する防災の意識をもつ大切さを伝えました。

●まちの縁側ぬくぬく亭での交流会

日時：12月20日、12月27日、1月14日、1月21日
14:00時~15:00

場所：zoomによるオンライン

人数：長野県長野市豊野地区の方3名~5名、神戸の学生6名

趣旨：「コロナ禍でボランティアの数が減ってしまい、長野で被災された人々の喪失感や不安を取り除くために、住民の方と交流をする」

内容：ぬくぬく亭にいられた地域の方とZoomで災害当時のお話やゲームなどを行い交流しました。ぬくぬく亭によって居場所ができ、心の病に向き合うことができたというお話など、自分たちが人生の中で学ぶべきことや、人との繋がりによってコミュニケーションをとる大切さをお話いただきました。ぬくぬく亭にいられた地域の方々が、安心してお話ができる場を作り、交流することで長野で被災された人々の喪失感や不安を取り除く取り組みを行いました。

●現地活動1日目

日時：1月6日

場所：長野県長野市長沼交流センター

参加者：長野市消防団長沼分団高見澤昇さん、元長野市消防団長沼分団飯島基弘さん、神戸学生3名、神戸スタッフ2名

趣旨：災害地を訪れ、現地を知ること。防災講演会に向けた打ち合わせを行うこと。

内容：長野市消防団長沼分団の飯島さんと高見澤さんのもとを訪れ、決壊した時の様子や、消防団としての活動を身振り手振り教えてくださいました。当日の流れがスムーズに進むように、新しい資料を用意して下さったり、コミュニティタイムラインについて、詳しく教えていただきながら、1月15日の防災・減災講演会の打ち合わせをしました。

●現地活動2日目

日時：1月7日

場所：長野県長野市豊野地区街の縁側ぬくぬく亭

参加者：長野県長野市豊野地区の方10名、神戸学生3名、神戸スタッフ2名

趣旨：これまでオンラインでしか交流できなかった方々と、対面で交流することで、コロナ禍でボランティアの数が減り不安な気持ちになっておられる被災された人々の気持ちに寄り添う

内容：「まちの縁側ぬくぬく亭」を訪れる地域の方と対面で交流を行いました。当時の状況を、丁寧に分かりやすく、写真を見せながら説明していただき、言葉だけでなく、その方の思いも感じることができました。現地ですることではか得られない、人と人との関係性、繋がりを感ずることができ、良い経験となりました。



●防災・減災講演会「自分は大丈夫とっていませんか?」長野市(長沼)消防団の方と見直そう!

日時：1月15日 18:00~19:00

場所：zoomによるオンライン

講師：長野市消防団長沼分団の飯島基弘さん、高見澤昇さん、東京大学大学院の松尾一郎先生

参加者：全国の社会人・大学生39名、神戸学生6名

趣旨：長野県での災害の経験を全国の人々の防災に繋がられるように、講演会を通して、防災減災の取り組みについて伝える。

内容：台風19号の被災を消防団としての活動や、被災当時の反省点を踏まえて、長沼地区の最新ルールブックの紹介をしました。また、タイムラインの大切さと、災害ストレスに対する心のケアについてお話していただき、長野県での災害の経験を、全国の人々の防災に繋がられるように、講演会を通して、防災・減災の取り組みについて伝えました。

●学生の声

頌栄短期大学 2回生 外種子田 千寛

約1年間活動をして、コロナ禍で対面での会議もほとんどできず毎回何時間もかけて話し合いをしてきました。現地の方とのヒアリングを行い、初めは私たちにできることが見つからず、難しく感じる時もありましたが、チームのメンバーそれぞれの特色や若者らしさを活かしてたくさんの方々の活動を行い、様々な経験ができたと思います。たくさんの方々の経験と人との出会いにとっても感謝しています。

岡山県小田郡矢掛町 倉敷市真備町での活動

●すごろく茶話会

日時：12月26日
 場所：岡山県立矢掛高校
 参加者：岡山県立矢掛高校の1年生5名、卒業生1名、神戸学生4名、神戸スタッフ1名
 趣旨：茶話会を通して被災経験のある方には当時のことを言葉にしてもらう。被災未経験の方には当時のことを知り、災害について考えてもらう。

- 内容：
- ①はじめの挨拶、団体説明・事業説明
 - ②アイスブレイク
 - ③茶話会(西日本豪雨について話を聞き、矢掛町や真備町のイラストと一緒に描くなど)
 - ④終わりの言葉

はじめは私たち大学生も高校生も緊張した様子で茶話会をはじめましたが、最後には和やかな雰囲気ですべて話しかけることができました。最後に参加してくれた高校生に茶話会の感想を聞いてみると、「最近家族とも友達とも西日本豪雨の話をするのがなかった。今回お話をする機会をいただけてとても良かった。」と実際に耳にして災害の風化を感じた。



●真備町フィールドワーク

日時：12月26日
 場所：真備町写真洗浄 岡工務店倉庫
 参加者：真備町写真洗浄の皆様 約10名、神戸学生3名、神戸スタッフ2名
 趣旨：真備町写真洗浄の活動に同行し、災害について様々な学びを得る。その学びを活かし、災害について語るための「災害すごろく」をより良いものにする。

- 内容：
- ・真備町写真洗浄の活動を知る。
 - ・真備町写真洗浄の方や被災地域の方から、災害への思いを伺う。
 - ・真備町を巡りながら、被災当時の様子を知る。

真備町写真洗浄の皆様から、西日本豪雨直後の状況やボランティアの様子を伺った。真備町写真洗浄の皆様が、災害発生当時から現在に至るまでどんな思いでボランティアを続けておられるのかを学んだ。また写真洗浄の活動に同行し、被災地域の方からも西日本豪雨のお話を伺うことができた。災害についての現実の声を聴き、そのお話からより学びの多いすごろくを完成させることへ繋がった。この現地活動で、災害について語る場の空気を感じ、心の復興の難しさなど災害に伴う様々な問題を見つめ直すきっかけになった。



●真備災害すごろくを一緒にやろう！

日時：1月22日
 場所：zoomによるオンライン
 参加者：岡山県立矢掛高校の1年生3名、3年生2名、高木潤先生、神戸学生7名
 趣旨：すごろくを通して被災された方もそうでない方も災害と向き合っ、お互いがゆっくと話しながら交流する。

- 内容：
- ①はじめの挨拶、団体説明・事業説明
 - ②自己紹介の後すごろくを実施
 - ③終わりの言葉

すごろくを通して被災経験者、被災未経験者関係なく、西日本豪雨について考えたり、クイズに答えたり、もし災害にあつたら…とシミュレーションしたり、私たち神戸の大学生と現地の様々な方と一緒に作成した真備災害すごろくを通して話し合いました。今後、真備の方々に真備災害すごろくを通して西日本豪雨について話し合うきっかけを作る手助けになれば、と思います。



学生の声

神戸松蔭女子学院大学 3回生 八木 沙織
 今回私たちの班は、災害すごろくを作るという目標を作りました。その為写真洗浄の方々や矢掛高校生に対面で話を聞きたいと思い12月末に岡山へ行きました。災害で汚れてしまった写真をすぐに乾かし写真洗浄の方々に渡すことによって思い出は、よみがえる事を学びました。これから災害が起きた後写真を捨てるのではなく自分で乾かしてから写真洗浄の方にお渡しすると「思い出がよみがえってくるよ。」と周りの人に教える事が出来ると思いました。この活動で写真洗浄について学んだことが多かったため、周りの方に広めていこうと思います。

熊本県人吉市での活動

●コロナ禍だけでもっとつながろう〜『つながるレター』と消しゴムハンコづくり〜

日時：2022年2月
 作成場所：神戸
 送付場所：人吉市下原田第一仮設・下原田第二仮設・村山あやめ広場仮設

人数：熊本県・神戸の学生8名
 趣旨：私たちは人吉の訪問予定日とコロナウイルス感染拡大時期が重なってしまい、当初計画していた現地活動の中止を余儀なくされた。そのため、現地に出会う予定だった仮設住宅の皆さんに自分達の想いを伝えるため「つながるレター」と、つながるカフェで使用してもらう「消しゴムハンコ」を製作した。

内容：これまでつながるカフェに参加した感想、人吉に行ってやりたかった事、消しゴムはんこの作成の様子、兵庫メンバーの感想を書いた「つながるレター」と「つながるカフェ」で使用してもらう「消しゴムはんこ」を現地でボランティアをしている熊本学園大学 山北翔太さんから、まん延防止等重点措置解除後、現地に出会う予定だった仮設住宅の皆さんに届けてもらう。「消しゴムはんこ」を得意とするメンバーを中心に、山北さんと話し合っデザインを考え、3つの仮設住宅の名前と人吉市の市章の中に人が話している様子と人吉の花の梅を付けたものや、郷土玩具のきじ馬やSL人吉、くまモン等を作成した。まん延防止措置のため直接お会いできないことやzoomを使ってしかお話しできなかったのは残念に思う。

●つながるカフェに参加



日時：11月15日、12月20日
 場所：zoom(下原田第二仮設、村山あやめ広場仮設)
 人数：熊本・神戸の学生4名
 趣旨：現地活動の際、現地の方とより早く打ち解けやすくなるため

内容：2か所の仮設住宅の集会場や談話室で開かれるつながるカフェにオンラインで参加した。現地の方々は、とても元気でフレンドリーで面白い話をたくさんしてくださった。人吉で有名な焼酎やうなぎ、そば、ケーキなどのおすすめのお店や地域の皆さんの好きな場所や思い出の場所等を話題に交流を深めた。



●事前学習会

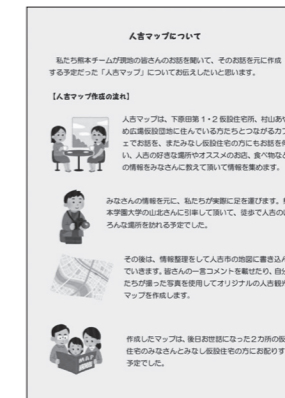
日時：11月28日、1月9日、1月10日
 場所：人と防災未来センター デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO) 大学コンソーシアムひょうご神戸事務局
 人数：熊本県・神戸の学生6名
 趣旨：現地活動の打合せ

内容：人吉市出身の熊本学園大学社福災害学生ボランティアグループ代表山北翔太さんに神戸に来ていただき、現地活動の打ち合わせや、活動するにあたって、人吉の被害状況や災害支援金の制度、今起きている問題などを教えていただきました。また、人と防災未来センターの見学をし、意見交換を行い、震災について考えを深めました。



学生の声

神戸海星女子学院大学 1回生 小谷 有花
 半年間コロナウイルスの影響により思うように活動が出来なくチーム一同すごく悔しい思いをしました。山北さんと様々な方々からの支えとつながるカフェの皆さんが、この活動に力を注ぐエネルギーになっていました。つながるカフェの皆さんがにこやかに話されている様子を見たり我々学生同士でたくさん試行錯誤会議を重ねたりしてきました。私は人とつながることが難しいからこそ今回の活動で様々な方とコミュニケーションの大切さを改めて感じました。私は次にすべきことがきっと人吉で見つかると思います。そのために人吉にいつか伺いたいです。





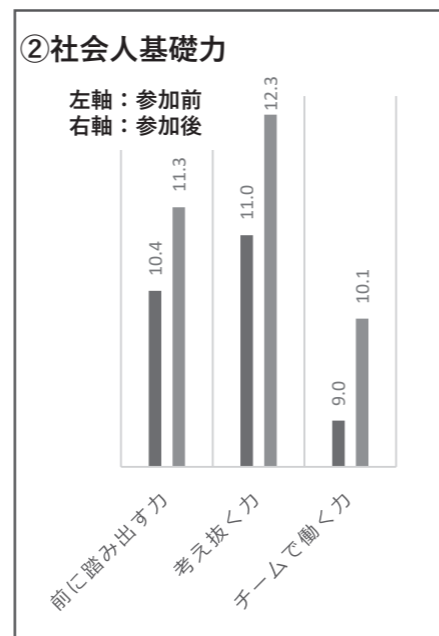
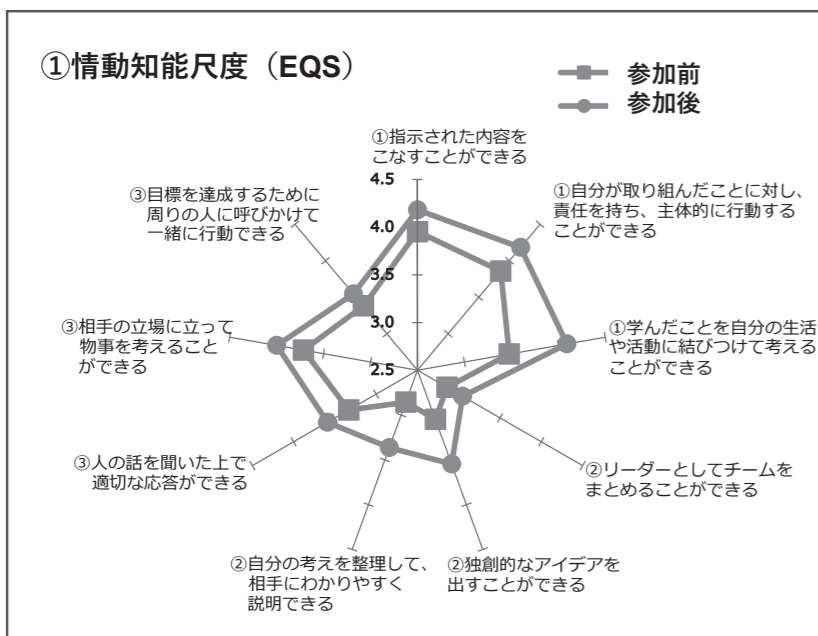
【参考】 ボランティア活動が学生に与えた影響

(1) 情動知能尺度 (EQS) と (2) 社会人基礎力の測定結果に基づく考察

今回は、参加学生に活動前後で同じ質問内容のアンケートを実施、その回答から参加学生の成長度の測定を試みました。その結果、「自分の考えを整理して、相手にわかりやすく説明できる」「学んだことを自分の生活や活動に結びつけて考えることができる」という項目の伸びが顕著でした。学生間、

現地関係者、講師、スタッフ等、多種多様な立場の人との関わり、相互理解が不可避という、当ボランティア活動ならではの過程で、これらの能力が養われたと考えられます。学生がボランティア活動×人的ネットワーク形成を主体的に行うことができた結果が、成長度に反映されたと思われます。

質問項目	(1)情動知能尺度 (EQS) ・ (2)社会人基礎力 の測定 <small>かなり持っている:5,ある程度持っている:4,持っている:3,あまり持っていない:2,持っていない:1</small>		(1)情動知能尺度 (EQS) の測定	(2)社会人基礎力	全体平均	
	参加前	参加後			参加前	参加後
指示された内容をこなすことができる	①自己対応—自己コントロール—自己決定	前に踏み出す力	4.0	4.2	4.0	4.2
自分が取り組んだことに対し、責任を持ち、主体的に行動することができる	①自己対応—自己コントロール—自制心	考え抜く力	3.9	4.2	3.9	4.2
学んだことを自分の生活や活動に結びつけて考えることができる	①自己対応—自己洞察—自己効力	考え抜く力	3.5	4.1	3.5	4.1
リーダーとしてチームをまとめることができる	②状況対応—リーダーシップ—集団指導	チームで働く力	2.9	3.0	2.9	3.0
独創的なアイデアを出すことができる	②状況対応—状況コントロール—機転性	前に踏み出す力	3.0	3.5	3.0	3.5
自分の考えを整理して、相手にわかりやすく説明できる	②状況対応—状況コントロール—適応性	チームで働く力	2.9	3.4	2.9	3.4
人の話を聞いたうえで、適切な応答ができる	③対人対応—愛他心—配慮、自発的援助	チームで働く力	3.3	3.6	3.3	3.6
相手の立場に立って物事を考えることができる	③対人対応—共感性—喜び・悩みの共感	考え抜く力	3.7	4.0	3.7	4.0
目標を達成するために周りの人に呼びかけて一緒に行動できる	③対人対応—対人コントロール—人材活用力	前に踏み出す力	3.4	3.5	3.4	3.5



～宮城チーム～

兵庫県立大学 片山恵太

今回のボランティア活動を通して、ボランティアをしようとする気持ちそのものが何よりも大事だと感じました。オンライン中心の活動だったからこそ出来た活動もあり、新たなボランティアの形を知れました。長沼さん、菊池さんをはじめとした現地の方々、またチームメンバーには感謝の気持ちしかありません。ありがとうございました。

神戸女学院大学 安達由梨

まず、菊池さんや長沼さん、コンソスタッフの皆さん、ありがとうございました。沢山の方に支えていただき、1年間のボランティア活動を終えることができました。最後に宮城チームの先輩方、一年間ありがとうございました。就活やアルバイトなど忙しい中での活動でしたが、先輩方とたくさん話せてとても楽しかったです！

神戸学院大学 延原克駿

ここまで自分たちが主体となって活動するボランティアは初めてでどうしたらいいのか分からないことだらけでしたが、みんなと助け合いながら無事に終わられました。ありがとうございました。また、活動にあたってどっと、なとり菊池さんや長沼さんにも大変お世話になりました。ありがとうございました。

神戸女学院大学 三浦妃加利

まずは現地の長沼さんや菊池さん、TASKIの皆様、今回の活動に関わっていただいたすべての皆様に感謝申し上げます。今回は「大学生生活の最後に何かをしたい！被災地の事を知りたい！」という想いで参加しました。被災地の想いと災害についてのこと、そして人を想うことを学ぶことができたのが1番の収穫でした。

甲南大学 辻本夏希

この活動でないと巡り合わなかったであろう仲間や宮城の皆さんと繋がり、楽しく交流が出来て良かったです。刺激の多い活動で、人に対して些細なことに気付き深く考えられるようにもなりました。またどこかで再会出来れば嬉しいです！ありがとうございました！！

神戸常盤大学 大島かれん

長沼さん、菊池さん、また現地の茶話会の方々などご協力頂きありがとうございました。被災経験を聞かせて頂いたりした事で自身が経験していない事もお話を通じて知る事が出来ました。またオンラインでの交流などは特に現地での作業が頼り切りになってしまう中で今年度も手を貸して下さい本当に感謝しています。

～長野チーム～

神戸学院大学 森本祐也

現地の方々へ、コロナ禍という大変な状況下でボランティアを受け入れて下さりありがとうございました。オンラインでの活動を中心に何度もヒアリング等に協力していただき、私達のボランティ

ア活動も良きものとなったのではないかと思います。活動の中でたくさんのことを学んだので今後の人生に活かしていきたいと思っています。

仲間へ、約1年間活動を共にして、悩んだり不安になったりいろいろあったと思います。何度もミーティングを重ね、お互いの意見をたくさん協議してきました。現地の方の喜びを見ていると自分自身も嬉しくなり活動して良かったと思えたことが私の中では、一番の収穫だと振り返ります。ボランティア活動において、仲間との連携も大切なものであると感じ、それは今後にも生きてくると思います。

1年間ありがとう！残りの活動も頑張りましょ！

神戸学院大学 石井颯

現地の方々へは、このようなりモートによる慣れない環境の中現地の状況やお話をさせていただいてありがとうございました。私は今までボランティア活動というものの自体想像のつきにくかったのですが、今回の活動を通して「被災地のためになる活動」を学ぶきっかけになりました。被災地を支える活動は絶対に必要だということをお忘れずこれからも防災について学んでいこうと思います。メンバーのみんなは約8ヶ月間お疲れ様でした。こんなに長い間ガッツリリーダーという役割で活動したのは初めてやったからあんまり上手くやれとったかわからへんけど、仲良くやれて良かったです(笑)。活動全部上手く行ったのもみんなが与えられた役割を期待以上に果たしてくれたからやと思います。これからみんな忙しくなると言うけど頑張って行きましょー！

神戸女学院大学 松本蓮実子

何度も何度もオンラインでミーティングを重ねて、現地の人のために何ができるのかアイデアもたくさんありすぎるくらい出し合ったね。相手の立場に立って考えることの出来る仲間に出会えて良かったです。私自身も新たに学んだこと、気付かされたことたくさんありました。周りのみんなが真剣に取り組んでいたからこそ私もこの活動を続けてこれたと思っています。本当にありがとうございました！これからもみんなとは仲良くしていきたいです。現地の方々へは、なれないりモートでの講演会やミーティングを何度もしてくださいありがとうございました。わたしたちの為を思って真剣に考え、共に企画してくださいありがとうございました。ぬくぬく亭さんとの話し合いでは残念ながら私は一度しか参加できませんでしたが、それでもその一回の話し合いにはとても内容の濃いものが詰まっていたととても感じています。今まで考えたこともなかったような地域とのつながりの大切さなど様々なことに気付かされました。今回の話し合いを機に私は、祖母のいる老人ホームに私が出来る限りのおもてなしをしに行くことを決めました。このような貴重な機会をくださり本当にありがとうございました。

頌栄短期大学 山口華永

活動を始めて約1年。行き詰まることもありましたが、話し合っ自分たちなりに考え、乗り越えていくことができました。この貴重な経験は、必ず今後自分の糧になると思います。昨年からは、今年まで一番濃く感じた1年でした。「やってみよう！」から災害ボランティアを始め、不安もありましたが、みんながいてくれたおかげで、楽しく充実した時間ばかりでした。本当にありがとう。そしてあと少し、締めくくりをしましょう！現地の方々とは、関わる上で緊張もありましたが、Zoomでもメー

ルでも、現地を訪れた時でも、いつもあたたかく私たちを受け入れてくださいました。「つながる」という経験、災害について現地の人の声を聞き、心で感じる学び、自分事として災害を捉えること、など学生のうちに体験でき、嬉しく思います。そして何より、現地の方とつながることができたのは私にとって大きな財産です。ありがとうございました。

神戸女学院大学 南原怜奈

去年の6月くらいから活動が始まって、現地のニーズや学生としてできることとのいい塩梅が定まらず、最初は活動内容が全く決まらなかったのがいい思い出です。それが社協の山崎さん、NGO 結中路さん、飯島さんや高見澤さん、またはぬくぬく亭の方々のような長野の皆さんからの多大な協力を得て、自分たちのすべきことが分かってきました。zoom講演会、ぬくぬく亭さんとの交流会、神戸常盤大学運営寺子屋での防災学習(こちらは戸谷先生のご協力がなければ絶対に実現できないものでした)…文章にまとめるとたった数行でも、これらの活動は、リーダーを筆頭としたメンバーの発想と努力がなければ成し遂げることはできなかったでしょう。最初はどうなるかと思った長野チームでの活動も、今ではここに割り振られたことがものすごく幸運だったように思います。私ができることはほんのわずかでしたが、皆さんには本当にお世話になりました。これまでに学んだこと、取り組んだことを活かして、今後の生活にも役立てていきたいと思います。ありがとうございました！

頌栄短期大学 外種子田千寛

約1年間活動をして、コロナ禍で対面での会議もほとんどできず毎回何時間もかけて話し合いをしてきました。現地の方とのヒアリングを行い初めは私たちにできることが見つからず、難しく感じる時もありましたが、チームのメンバーそれぞれの特色や若者らしさを活かしてたくさん活動を行うことができたと思います。小学生へ向けた学習教材、講演会の主催など、なかなか経験できないことを経験できました。本来支援しなければならない長野県の現地の方の協力もたくさん頂きながらでしたが、お互いに支え合い学び合う形で素晴らしい活動になったのではないかと思います。長野県チームメンバーはもちろん、見守ってくださった先生方、長野県の方と出会えて、今の関係を作れてこの経験は私にとって忘れないものになりました。このチームは、どのチームよりも間違いなく仲が良く楽しいチームです!!学年も違うし、出身地もバラバラで学ぶことも全然違うけどだからこそ新しい発見がたくさんあっていつも楽しかったです。このメンバーで作ったこの1年の活動をとても誇りに思っています。

～岡山チーム～

神戸松蔭女子学院大学 八木沙織

メンバーへ
私が、仕事を割り振っても「いいよ」と言ってくれてありがとう。前向きなメンバーで助かりました。
現地の方々へ
学ぶことが多くて、これをスゴロクにするためにはどうしたらいいのだろうと考えていた時にアドバイスを下さったおかげでみんなが勉強になるスゴロクを作る事が出来ました。ありがとうございました。

神戸学院大学 小西亮

この度はボランティアに参加させていただいてありがとうございました。自分自身、初めてのボランティアということもあり最初は戸惑っていましたが現地の人の温かい声や仲間がいて最後まで

頑張れました。私がボランティアで学んだことはいかに相手の為に行動するという事です。これはこれからの人生でも大切にるので忘れたいようにしたいです。

神戸松蔭女子学院大学 上北和佳

約半年間、本当にお世話になりました。
災害については、もちろんですがグループで活動することや人と繋がること・寄り添うことと向き合い、この半年間でとても貴重な経験を得られたなと感じています。
みなさんと出会えたこのボランティアに参加できてよかったです。ありがとうございました。

神戸松蔭女子学院大学 岡田麻生

今までこんなにも現地の方々に関わり、自発的にどのようなことをこの事業を通してお手伝いすることができるのか、私たちにできるのか、を考えたことはありませんでした。コロナウイルスの影響でなかなか思い通りにならない場面もありましたが、私たち岡山チームがひとつとなって活動し、現地の方々に喜んでいただけて非常に嬉しかったです。ありがとうございました。

神戸女子大学 角野乃南

岡山チームの中では一番歳下という事もあり、至らない所がありました。フォローし合うというチームワークの精神があった為、沢山助けられ、乗り越えられました。有難う御座いました。現地の方々、お忙しい中現地活動の際は私達の活動に尽力して頂き、有難う御座いました。すごろくに反映します。貴重な経験になりました。

神戸松蔭女子学院大学 長久紗也

人生で初めてのボランティア経験でしたが、チームメンバーに恵まれたおかげで、大変ながらも楽しく活動できました。また、交流させていただいた真備の方々も、お忙しい中たくさん活動に協力して下さり、真備のこと、災害のことなど、本当に多くを学ぶことができました。参加して良かったです！

神戸大学 永富寛弥

活動を行うまでに解決すべき課題がたくさんあり、当初は不安でいっぱいでした。しかし、現地の方々を含め、多くの方から助言をいただいたことで何とか活動を形作ることができました。現地のみなさん、チームメイトのみんな、神戸市社協や大学コンソーシアムの方々、本当にありがとうございました！

～熊本チーム～

神戸女子大学 越智茉妃瑠

私はこのボランティアを通して、自分のやりたいことや現地の方の思いを1からよく考えて活動に取り組むことができました。熊本県人吉市のことを深く考えるきっかけにもなりました。人との出会いや仲間と協力してできた経験は、今後の人生においても大切になってくると思います。いつか現地に足を運び、この繋がりを継続できるようにしていきたいです。ありがとうございました。

神戸女学院大学 河田里佳子

熊本チームでの活動を通してお世話になった現地の方々、また熊本チームの皆さん本当にありがとうございました。Zoomで熊本の各地域の方々のお話を聞かせて頂けたことや約半年間での熊本チームの中でも活動は私にとってとても貴重な経験でした。この経験をこれからの人生の中でも生かしていきたいです。

神戸海星女子学院大学 小谷有花

パソコン越しでのボランティア活動が多かった中、人とつながることの大切さを改めて知りました。チームの皆さんで何度も考え、議論しあった半年はとても良い経験です。いつか人吉市へ伺いたいと思っています。熊本の皆さんやチームの皆さん本当にありがとうございました。

神戸学院大学 成松和紀

熊本チームのリーダーをやらせてもらって頂いて、本当にこのメンバーで活動出来てよかったなと思っています。また山北さんにも色々協力して頂いて感謝の気持ちでいっぱいです。このチームで色々な事がありましたが良い経験ができたと思っています。

	氏名	所属等（大学）	所属等（学部）	所属等（学科）	回生
岡山チーム	永富 寛弥	神戸	理	物理	M1
	小西 亮	神戸学院	グローバル コミュニケーション	グローバル コミュニケーション	3回生
	八木 沙織 ★	神戸松蔭女子学院	文	日本語日本文化	3回生
	角野 乃南	神戸女子	文	国際教養	1回生
	長久 紗也	神戸松蔭女子学院	人間科	都市生活	3回生
	岡田 麻生	神戸松蔭女子学院	文	英語	3回生
	上北 和佳	神戸松蔭女子学院	文	英語	3回生

熊本チーム	yassmyn khairussalima	兵庫県立	大学院	economics and management	1回生
	小谷 有花	神戸海星女子学院	現代人間	心理こども	1回生
	安井 彬人	神戸学院	経営	経営	2回生
	成松 和紀 ★	神戸学院	経営	経営	3回生
	河田 里佳子	神戸女学院	人間科	心理行動科	3回生
	越智 茉妃瑠	神戸女子	家政	管理栄養士養成課程	4回生
	才木 美優	神戸松蔭女子学院	文	英語	3回生

宮城チーム	辻本 夏希	甲南	マネジメント創造	マネジメント創造	3回生
	延原 克駿 ★	神戸学院	人文	人文	2回生
	安達 由梨	神戸女学院	文	総合文化	1回生
	三浦 妃加利	神戸女学院	文	英文	4回生
	片山 恵太	兵庫県立	国際商経	国際商経	2回生
	大島 かれん	神戸常盤	保健科	診療放射線	2回生

長野チーム	松本 蓮実子	神戸女学院	文	英文	4回生
	森本 佑弥	神戸学院	現代社会	社会防災	3回生
	石井 颯 ★	神戸学院	現代社会	社会防災	3回生
	南原 怜奈	神戸女学院	文	総合文化	2回生
	外種子田 千寛	頌栄短期	保育	保育科	2回生
	山口 華永	頌栄短期	保育	保育科	2回生

★はリーダーです

学生スタッフ

森本 彩乃 頌栄短期大学 専攻科 1回生

茶谷 まりん 神戸女子大学 文学部 日本語日本文学科 3回生

神戸学院大学 安井彬人

今年度の学生災害ボランティア・ネットワーク事業はコロナの影響でなかなか計画することが難しい中で本活動も定まらない厳しい状況でしたが、チーム全体と熊本の方々と協力で現地の状況や支援金に関しての細かい部分まで知ることができました。ありがとうございました。

兵庫県立大学 ヤスミンハイラサリマ

コロナのために現地には行きませんでしたが、それでもおもしろい体験ができました！また、今まで知らなかった熊本の災害について知ることができ、彼らの話を聞いて刺激を受けました。いつか人吉市に行ってみたいです。将来はこのような活動を体験し、より多くの人と出会い、より多くの人役に立ちたいと思います。熊本の皆さん、チームの皆さん、ありがとうございました。



お世話になった現地の方のコメント

関上中央町内会会長 長沼 俊幸さん

この神戸の学生と東北（関上）の繋がりは長く続けて貰いたいです。そして、阪神淡路大震災もそうですが、被災者の心の復興には終わりが無いと言うことを是非伝えて貰いたいです。

名取市サポートセンターどっと.なとり 総括菊地 麻理子さん

今年度活動の「オンラインツアー」は、コロナ禍で人とつながることが難しい中、離れていても楽しみを届け、交流を深めることが実現できたと思います。

震災そしてパンデミックと私たちに立ちはかかる壁は高いですが、できないことよりもできることに目を向け、継続的に活動できたことは、関上とひょうごをつなぐ「灯りのみち」となってこれからも続いていくと期待しています。

尚綱学院大学ボランティアチーム TASKI一同さん

コンソーシアム神戸の学生さんとは、毎年関わらせて貰っています。コロナ流行により、オンラインとなりましたが、交流は続いています。今年度のお茶会では、オンラインということで難しい点が多い中、関上の住民さんと完璧にコミュニケーションを取られていました。そのおかげで、非常に楽しい会となりました。

長野市消防団長沼分団分団長 高見澤 昇さん

この様な経験をさせていただき、緊張しましたが、貴重な経験と、皆さんに感謝しております。今回の講演が少しでも、皆様のお役にできればと、祈っております。この経験で一人でも多くの方が、災害から、逃れていただければと、心から祈っております。今後もあの体験を多くの方達に伝えることで、お役にたてるのであれば、助けていただいた、ご恩返しになるのかと、思っております。ご参加していただいた皆様の今後のご活躍を、心よりお祈りし、社会に羽ばたいて、いただけたらと、思います。

とよの福向チーム集落元快 清水 厚子さん

神戸から保育士を目指す孫(のような)娘3人が、先生お二人の引率でぬくぬく亭へ。迎えた「昔の遊びで(世代と文化を)つなぎ帯・遊び隊」がオハジキ、お手玉、ブンブンゴマなどを披露すると、孫娘達も挑戦して楽しく大盛り上がり。昔の遊びを伝え、孫娘達に元気をもらえた2時間だった。ありがとう、またお越し下さいね。

豊野地区住民自治協議会 北澤 咲子さん

「へー！これ神戸とつながってるの？」初めてオンラインを使って話をしたおばあちゃん達。いざ始まると話が止まらない(笑)。実際にぬくぬく亭に会いに来てくれてさらに親近感が湧きました。「災害で一時は元気がなかったけど今は頑張ってるよ。」いろんな人に応援してもらい元気になりました。これで終わりにせず、ずっと交流できたらいいですね！本当にありがとうございました。

長野県社会福祉協議会 山崎 博之さん

台風災害がきっかけで誕生したまちの縁側ぬくぬく亭。その後、住民が寄り集まる温かい雰囲気地域の居場所へと発展していきました。神戸の学生とのつながりも災害がきっかけですが、今回の直接ふれあえる機会に住民の皆さんの自然に溢れ出る笑顔が印象的でした。温かい空間に温かい風を運んでくれてありがとうございました。

岡山県立矢掛高等学校教諭 高木 潤先生

昨年度に引き続き活動に参加させていただきました。西日本豪雨災害から3年。最近では高校生の中でも日常を取り戻しつつある中で、忘れられていくことにどう向き合うかが課題です。今回の「真備防災すごろく」の取組はそこに大きなヒントを与えていただきました。被災者・未災者を超え、様々な世代を超えて一緒に「すごろく」を行うことで、災害や防災についての広くて深い語り合いが生まれます。今後の防災教育の場面でもうまく活用していくことができそう。神戸の学生のみなさんや社協の皆様が現場にしっかり目を向けられ、丁寧な準備をしてくださったことで生み出された、あたたかい作品(取組)だと感じました。ありがとうございました。

倉敷市社会福祉協議会 地域福祉課 主任 山本 知穂さん

私たちからのヒアリングを経て「被災から3年を経過した今だからこぞ言えることがあるのではないか。」「被災の有無や世代の枠を取り払い、オール真備であるためには？」というテーマに取り組むことに決め、そのための活動で「真備災害すごろくの作成とすごろくワークショップの実施」に至ったのは、とても柔軟な発想で興味深かったです。予定していたマルシェですすごろくワークは実現しませんでした。ヒアリングされた住民の方がみなさんと一緒にすごろくができるのを楽しみにして下さっていたり、またオンラインで矢掛高校生とのワークが盛り上がったと聞いて本当に良かったと思っています。いつか時勢が落ち着いたら是非また真備町へお越しください。

熊本学園大学 社福災害学生ボランティアグループ代表 山北 翔大

2年連続での活動でしたがコロナ禍の状況は変わらない中、熊本チームの皆さんは熱心に取り組んでくださり、私自身のモチベーションにも繋がりました。コロナ禍の被災地支援ではいつ状況が変化するかが分からず、2手先3手先を見据えて計画をする必要があります。皆さんも実感して頂いたと思いますが、出来ない状況の中で「どうやったら出来るのか」を考えることが重要だと思っています。今年度は私自身、神戸にも二度伺うことができ良い経験となりました。活動は一旦終了ですが、過去の災害を忘れず、是非熊本にもお越しください。

スタッフのコメント

神戸女子大学 文学部教授

大西 雅裕

コロナ禍での二年目の取り組みとなった本年度、今年こそ現地へ行ってという想いも、十分に実現することができない活動となりました。しかしながら、その狭間で現地に赴くことができたグループや、オンラインやその他の方法を模索し、なんとか本事業を前に進めることができたことは、学生の皆さんの“パッション”であったと思います。そして本事業の根底にある「つたえる」「つながる」「つづける」に繋げて、自分事としての日常になっていってほしいと思います。

頌栄短期大学

渡邊 恵梨佳

世界中が大変な中、この活動に最後まで取り組んだ学生の皆さんの行動力は素晴らしいです。日常生活や学生生活なども制限がかかり、思うようにできないことも多々あったと思います。それでも、現地と繋がりが交流したいと願いオンラインで実施したり、多くの支えにより何とか現地入りできたり、様々な形態で活動が進みました。それぞれが災害について共有し、学び合いながら活動できたこと、また学生の皆さんの熱い思いを誇りに思います。こんな時だからこそ人のために！それができる皆さんの姿を頼もしく感じました。

神戸市社会福祉協議会 地域支援部 広報交流担当課長

藤崎 圭多朗

コロナ下での活動は苦労や困惑の連続だったのではないかと思います。まずはなによりお疲れ様でした。

昨年にこの事業へエントリーしようと思い立った時の自分を思い返してみましよう。今の自分と比べてみて、実感できる変化としてはどのようなものがあるでしょうか。

そうしたこれまでの自分との“違い”がこの事業を通じて得られた成果だと言えます。

得られた成果をもとに、次はこれからの自身のあり様について考えてみてください。世の中には大小様々な課題があり、中にはあなたの助けを必要としているものがあるかもしれませんよ。

神戸市社会福祉協議会 地域支援部

國生 真由

ボランティア活動が初めてだった人も多かったことと思います。活動について、現地の方やチームメンバーとの関わりについて、きっとそれぞれがたくさん悩み、考えながら活動されていたことでしょう。それは、自分じゃない目の前の人のことを思った結果だと私は思います。思いやりを持って行動することはボランティアに限らずとても大切なことです。活動が終わった後も思いやりの心を大切に過ごしていってほしいです。みなさんと活動する中で私自身もたくさんの発見があり、とても勉強になりました。ありがとうございました。

神戸市社会福祉協議会 地域支援部

北 苑子

約8か月間、本当にお疲れ様でした。学生の間にこのような災害地支援の経験を積まれたみなさんを羨ましく思います。今回サポート役としての位置づけではありましたが、みなさんと一緒に考え悩みながら時間を過ごし、私自身たくさんの学びがありました。

またコロナに現地活動を阻まれながらも、つながることの大切さ、顔や言葉を交わす大切さを感じていただけたのではないかと思います。ボランティアとは困っている人をお手伝いするだけではないと思います。対等であること、互いに楽しい時間を過ごせることが私の思うボランティアです。これからもみなさんの楽しい、やってみたいという気持ちをぜひボランティアに活かしていってください。

日本財団ボランティアセンター

宮腰 義仁

一人ひとりが、考え方をアップデートしていく、むしろOSを全く新しくしないといけない状況が続いています。社会が変わらざるを得ないのはもちろ

ん、人間のあり方や世界への向き合い方の一大変革期の真っ只中。わたしたちが事業を通して経験したのは、体を動かして汗をかいて直に人と繋がるだけではない、画面越しに気持ちをやりとりすること、遠く離れた場所にいる方々のことを想うこと、何かを行うこと。出会えた方たち、出会えなかった方たち、わたしたちの営みは続いていきます。生活が踊るように面白くいきましょう。

神戸常盤大学 ボランティアコーディネーター

戸谷 富江

この1年間を通して、学生のみなさんからたくさんのお話を教えてもらいました。相手の心に寄り添うということ、自分の言動に責任を持つということ、自らが行動を起こせば社会が変わるということ、頼れる相手がいることが自分の持つ力を最大限に引き出すということ。他にもたくさんありますが、みなさんがいたからこそ気付けたことです。それだけみなさんは影響力を持っているということです。

改めてみなさんに問いかけたいと思います。『あなたの強みは何ですか？』この1年間を振り返り、もう一度自分自身を見つめ直してみてください。

最後に、授業や課外活動、資格試験の勉強、アルバイトと忙しい中で、活動先の方々と仲間の協力を得ながら、どの相手にも真摯に向き合い続けてきたみなさんに最大級の賛辞を送ります。

神戸常盤大学 ボランティアセンター長

保健科学部 講師

永島 聡

コロナ禍という制約された状況の中で、WEBを駆使しつつ新しいボランティアのあり方を模索できたということは、とても意義深かったのではないのでしょうか。一方で、私を含め一部の人は現地に赴くことができました。そこでやはり、対面での出会いと対話の重みは計り知れないものであるということ、私自身あらためて体感できました。生の人間関係の継続こそが、地元の皆様にとってもボランティア学生にとっても、より深い意味のある体験になり得ると思います。

大学コンソーシアムひょうご神戸

学生交流委員会 副委員長校

学生災害ボランティア・ネットワーク事業 事務局

甲南大学 地域連携センター事務局 課長

松下 賢一

学生の皆さん、今年度の活動、お疲れ様でした。この学生災害ボランティア・ネットワーク事業は、東日本大震災発災の年からスタートし、今年度で11年目の活動になりました。ここまで継続できたのはこれまで関わっていただいた関係者の皆様のご協力によるものです。中でもこの2年間はコロナ禍での活動となり、対面でのコミュニケーション活動に重きをおいて活動してきましたが、それが難しくなりました。ただ、この状況下でも学生の皆さんのアイデアを活かした様々な活動が、それぞれの活動地で展開できたことは、現地の皆さんに喜んでいただけたものと確信しています。

学生の皆さんには、この活動で経験したことを次に活かしていただくとともに、今回、関わった活動地とのご縁を大切に、今後に繋いでいただきたいと思います。

大学コンソーシアムひょうご神戸 事務局

鈴木 真紀子

みなさんは活動を終えて、今どんな気持ちですか？「誰かのために何かをしたい」というおもいを伝えることはできましたか？おもいを受け止めてくださった現地の方のみなさんへのおもいを感じることはできましたか？感じたのなら、それを大事に、感じなかったのなら、想像してください。人をおもおうことは、同時にその人におもわれることだと思います。

この活動を通して、自分の心が動いた瞬間、仲間や現地の方の心を感じた瞬間を忘れずに…。そして、その瞬間までの一筋縄ではいかなかった道のりを皆さんの糧に…。「誰かのために…」が、一方通行にならないよう、これからも、みなさんの心の中にある温かいものを大切に、自分の目指す道を邁進していきましょう！みなさんなら大丈夫！ありがとう！

2021年度
学生災害ボランティア・ネットワーク事業
報告書

VOLUNTEER
REPORT 2021 JUL. ▶ 2022 MAR.

発行日：2022年3月
神戸市社会福祉協議会・日本財団ボランティアセンター
大学コンソーシアムひょうご神戸
印刷：イワサキ出版印刷有限公司